

LA ROCHE POSAY

LABORATOIRE DERMATOLOGIQUE

ラ ロッシュ ポゼ

第39回

日本美容皮膚科学会総会・学術大会

フォトプロテクション最前線
イブニングセミナー 2



日時

7月31日(土) 16:50~17:50

会場

国立京都国際会館
第2会場 (1F さくら)

座長

船坂 陽子 先生
(日本医科大学 皮膚科学 教授)

演者

小池 徹 研究員
(日本ロレアル株式会社 リサーチ&イノベーションセンター
スキンケア開発研究所フォトプロテクションエキスパート)
「『日本人のフォトエイジングアトラス』について」

森田 明理 先生

(名古屋市立大学 大学院医学系研究科 加齢・環境皮膚科 教授)
「紫外線防御剤の選択とフォトエイジング対策」



【サンプルをご希望の先生方はこちらからお申込みください】
「美容皮膚科学会 特別サンプルセット」をご要望の先生方は、こちらのQR
コードよりお申込み下さい。

共催

第39回日本美容皮膚科学会総会・学術大会

日本ロレアル株式会社 アクティブコスメティックス事業部

プログラム

第1演題

『日本人のフォトエイジングアトラス』について

小池 徹 研究員

(日本ロレアル株式会社 リサーチ&イノベーションセンター
スキンケア開発研究所フォトプロテクションエキスパート)

ロレアルでは長年にわたって世界中の遺伝的・文化的背景の異なる人々の皮膚のタイプやエイジングに関する研究を行っている。その研究結果の一部として、欧米人、アジア人、アフリカ系アメリカ人、およびインド人についての顔に現れる加齢徴候を進行度に従って高精細の写真で示したエイジングアトラスを2007年より順次出版してきた。近年、太陽光紫外線への曝露が皮膚の加齢徴候の進行に大きく寄与することが明らかになり、この光老化（フォトエイジング）と呼ばれる過程が注目を集めていることから、2017年には太陽光への曝露が異なるグループで皮膚の加齢徴候がどのように異なるかを欧米人とアジア人で調査したフォトエイジングに関するアトラスを出版した。新たに1,011名の日本人女性の協力を得て、顔および手の甲に現れる加齢徴候についての調査を行い、「太陽光を忌避するグループ」では「忌避しないグループ」に比べて顔と手における加齢徴候の進行が緩やかであることが明らかに示された。2019年に出版した『スキンエイジングアトラス 日本人におけるフォトエイジングの特徴 顔および手』ではこれらの結果と、加齢徴候の進行度の客観的な評価を可能にする、高精細の画像スケールを掲載している。このアトラスは以下のサイトからダウンロード可能である。

http://news.nihon-loreal.jp/research_innovation_center/ [09スキンエイジングアトラス日本人編ダウンロード]

第2演題

紫外線防御剤の選択とフォトエイジング対策

森田明理先生

(名古屋市立大学 大学院医学研究科 加齢・環境皮膚科 教授)

近年、太陽光の波長が皮膚に与える影響について解明されていくのに伴い、サンスクリーン剤のUVフィルター技術が進歩し、皮膚のフォトタイプや皮膚疾患に合わせたサンスクリーン剤を選択することが可能となってきた。日焼け止めのSPFは、紫外線UVBに対する防御の一般的な指標であるが、長波UVA (UVA1; 340-400 nm) は、色素沈着、光老化、皮膚がん、DNA損傷、光線過敏症に重要な役割を果たすことが知られている。本講演では、まずUVに関する基礎知識、光老化のメカニズムや日本と海外の光老化に関する比較データを紹介したい。そして昨年、フォトプロテクションをテーマに開催されたthe 1st worldwide scientific committee で得られたコンセンサスを基に、ニキビ、アトピーや光老化など様々な皮膚疾患に対する紫外線対策の実践的な推奨事項を確認し、適切な紫外線防御剤や使用方法などについて指針を示したい。